

環境活動レポート

2015年

対象期間 2015年1月1日～2015年12月31日



目次

■ 環境方針	2
■ 事業活動の概要	3
■ EA21 推進組織図	4
■ 環境目標とその実績（環境負荷実績と環境目標比較）	5
■ 環境活動の取組みと評価	7
■ 環境関連法規制の遵守状況	18
■ 代表者による全体の取組状況の評価と見直し	19

■環境方針

<基本理念>

当社は、地球環境保全が人類共通の重要課題であることを認識し、社会の一員として、地球環境の保全と向上に貢献すべく、環境マネジメントシステムを経営の一環として取組み、全ての事業活動において環境保全に配慮した継続的な行動を推進します。

<行動指針>

当社は、すべての事業活動が環境に何らかの影響を及ぼしていることを認識、理解した上で、情報通信機器の商品の開発・製造・販売及びメンテナンスの事業活動においては特に、以下の環境保全活動に積極的に取組みます。

1. 事業活動の全領域で、安心・安全を基本とし、資源・エネルギーの有効活用、汚染防止、廃棄物の削減・適正処理及び製品のライフサイクルを通じた環境配慮製品開発及びサービス業務を推進します。
2. 環境に関連する法規制及び各自治体の環境条例、協定及びその他当社が同意する要求事項を遵守すると共に、可能であれば自主管理基準を設けて環境管理レベルの向上を図ります。
3. 次の事項を重点的なテーマとして、環境目標を設定し、その活動状況を環境マニュアルに沿って定期的に確認、評価、改善を行います。
 - (1) 電気エネルギー等の節減によるCO₂の排出抑制、総排水量及び廃棄物の排出抑制を図る。
 - (2) 化学物質の適正管理を図る。
 - (3) 製品に関する環境配慮の推進を図る。
 - (4) グリーン購入の推進を図る。
 - (5) 業務におけるQCDの向上を図る。
4. 基本方針の周知徹底のため、環境教育、社内広報活動の実施により、全従業員が結束して環境マネジメントシステムの維持向上を図ります。
5. 環境保全関連の行政機関、団体や地域社会における環境保全活動に対し、積極的に参画し社会貢献を推進します。また地域住民、利害関係者との双方向環境コミュニケーションをとり、環境改善を誠実に対応します。
6. 環境活動レポートは、社内外に公表します。

2006年9月1日制定

2012年1月1日更新

2013年1月1日改定

株式会社 長塚電話工業所

代表取締役

長塚 将

■事業活動の概要

1. 事業者名及び代表者名

株式会社 長塚電話工業所

代表取締役 長塚 将

2. 所在地

【高津営業所】EA 2 1 認証・登録範囲 (2007年2月26日認証・登録)

〒213-0013 神奈川県川崎市高津区宇奈根643-3

【本社】EA 2 1 認証・登録範囲 (2013年2月26日認証・登録)

〒152-0004 東京都目黒区鷹番2-11-1

【西日本ソリューション事業部】EA 2 1 認証・登録範囲 (2013年2月26日認証・登録)

〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-9-11 アイ・プラス江戸堀2階

3. 環境管理責任者及び担当責任者連絡先

環境管理責任者： 企画営業部 部長 石川 憲彰

担当者： EA21 推進事務局 岡田 あい子

連絡先： 電話 044-850-1533

FAX 044-850-1534

4. 事業内容

情報通信機器の製造販売及びネットワーク関連システム販売

5. 事業の規模 (2015年12月31日現在)

(1) 従業員数 19名 (本社1名 高津11名 西日本7名)

(2) 敷地面積 総延床面積 321㎡

【内訳】

■本社 約79㎡

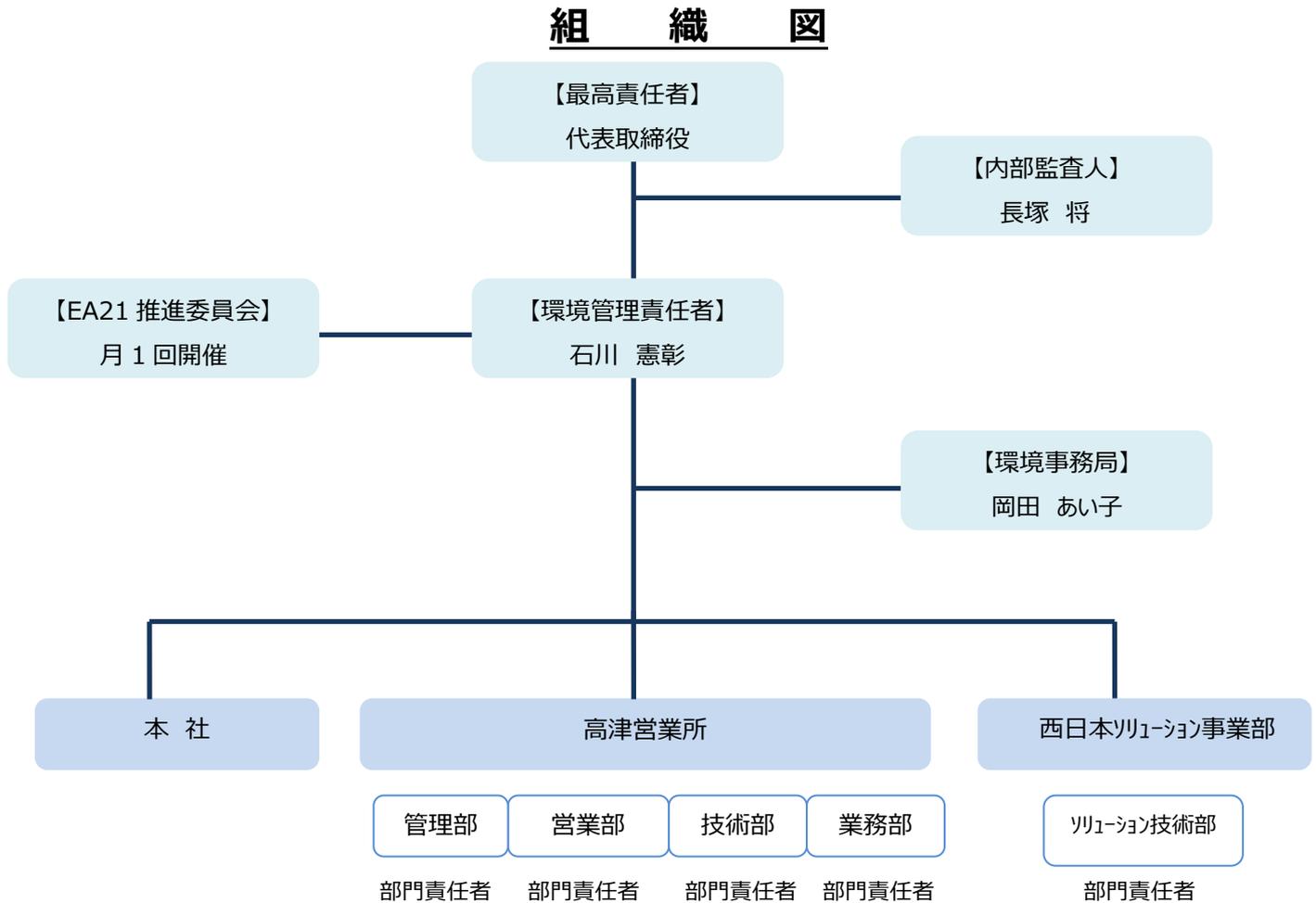
■高津営業所 約175㎡

■西日本ソリューション事業部 約67㎡

(3) 売上高 (2015年1月～12月) 598百万円

■ EA 2 1 推進組織図

当社 EA 2 1（エコアクション 2 1）の運用組織を下記の通り定める。



■ 環境目標とその実績（環境負荷実績と環境目標比較）

61期の環境目標、削減目標を下記のとおりに定め、環境活動に取り組みました。

1. 主要な環境目標と環境負荷・実績

環境目的項目	60期	61期		62期	63期
	2014/1-12	2015/1-12		2016/1-12	2017/1-12
	基準実績	目標	実績	目標	目標
二酸化炭素の排出抑制 単位 Kg - CO ₂ /売上 排出係数 東京 0.464 大阪 0.45 平成 23 年度採用	削減率 33.20	-5.0% 31.54	-15.5% 28.08	-8.2% 30.49	-11.1% 29.51
焼却処理廃棄物の 排出抑制 単位 kg/売上	削減率 0.276	-4.7% 0.263	-36.6% 0.175	-8.0% 0.254	-10.9% 0.246
水資源投入量の抑制 単位 m ³ /売上	削減率 0.138	-3.6% 0.133	-20.3% 0.110	-6.5% 0.129	-8.7% 0.126

今期は3大環境目標値に売上原単位を採用しました。それに伴い、基準値とした60期（前期）の実績値を総量から売上原単位に変換させ表記しています。

* 本社の電力使用量のうち、低圧電力はデータ入手可能であるが、従量電灯については、本社の家主さんのメーターを使用しており、使用量が不明のため、概算として総電力使用量の1/3を本社使用分としてとしている。また本社水使用量については、本社の家主さんのメーターのみで使用量が不明なために、概算として1か月、0.5 m³を水使用量としている。

* 西日本ソリューション事業部については、個別の電気使用量、廃棄物量についてはデータ入手可能であるが、水使用量については、ビル内共同トイレのため情報入手は不可となっている。

今期（第61期）から、三大環境目標については、2014年（第60期）のデータをベースに、目標値は総量から売上原単位に変更しました。拠点も安定し、基礎となるデータ収集も入手したので、売上との連動性で売上向上を目指して原単位に戻しました。

- ①二酸化炭素の排出抑制目標は、本社、高津営業所、西日本ソリューション事業部の共通目標としました。
- ②焼却処理廃棄物の排出抑制目標は、本社、高津営業所、西日本ソリューション事業部の共通目標としました。
- ③水資源投入量の抑制目標は、本社、高津営業所、西日本ソリューション事業部の共通目標としました。

2. 上記の主要な環境目標の他に、以下の事項も目的として取り組みました。

① **化学物質の管理の徹底**

ヘキサン保管庫でのヘキサンの適正管理を継続して行います。共晶半田の測定も定期的を実施し、適正管理を実施します。

② **製品に関する環境配慮**

箱エコ（個装箱省略）の推進の継続、情報処理票の運用の継続を目指します。また、技術部門は製品の小型化・省電力化の余地がないか検討します。

③ **業務における QCD の向上**

ホームページの情報更新によって営業や業務の負担軽減を目指します。日常業務における諸問題を顕在化させ、改善して QC の向上を目指します。ソリューション事業部事業における原価管理の運用を行います。

④ **グリーン購入の推進**

積極的にエコ商品購入を進め、事務用品、備品等のグリーン購入比率 70%を維持します。また、資材のグリーン調達を推進します。

⑤ **5S・4定の徹底**

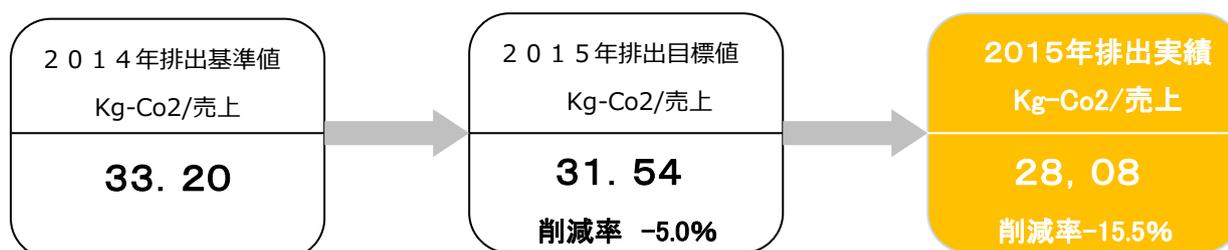
商品や部材の定置定物化を実施し、無駄のない発注・在庫状態を目指します。ゴミ収納庫を購入し、衛生面の向上及び職場の整理整頓のランクアップを目指します。

■ 環境活動の取組み内容と評価及び次年度の活動

1. 二酸化炭素の排出抑制

【取組み内容】

- 1) 5月～10月給湯器の使用停止
- 2) サーキュレーターの使用の徹底、空調温度の適正化
- 3) 電気機器未使用時の電源 OFF
- 4) 高津エアコン、サーキュレーター、自転車の購入



【評価】削減目標達成

本社、高津、大阪と拠点活動が落ち着いてきたために、今年度から再度売上原単位を採用することにしました。売上目標もクリアでき目標達成が叶いました。ただし、ソリューション部門は目標売上が達成できていないという内部的問題はあります。売上が伸びなかった原因は営業力の不足と案件のスケジュール的遅延により、期待していた売上があがらなかったことにあります。

一方、総量ベースで考察すると、社員の意識向上による削減効果及びエアコン買い替え効果がみられました。本社・高津の二酸化炭素排出量は2014年度 11,523Kg-Co2 →2015年度 9,632Kg-Co2
大阪の二酸化炭素排出量は2014年度 6,771Kg-Co2→2015年度 6,411Kg-Co2
と前年値を下回ることができました。

1) 5月～10月給湯器の使用停止

LPガス使用削減のために、初夏から秋にかけての給湯器使用は停止し、LPガスの削減に努めました。

2) サーキュレーターの使用の徹底、空調温度の適正化

室温を冬場は21～22度、夏場は26～27度をメドにエアコンの温度調整及びサーキュレーターの使用により空気の循環を行い、効率的な冷暖房を目指しました。

3) 電気機器未使用時の電源 OFF

特に退社時に、コンセントからのプラグの抜き忘れがないか、不要なコンセント使用はないかを確認するようにしました。大阪においては、啓蒙教育が実り、昼休みの消灯の徹底がはかれるようになりました。

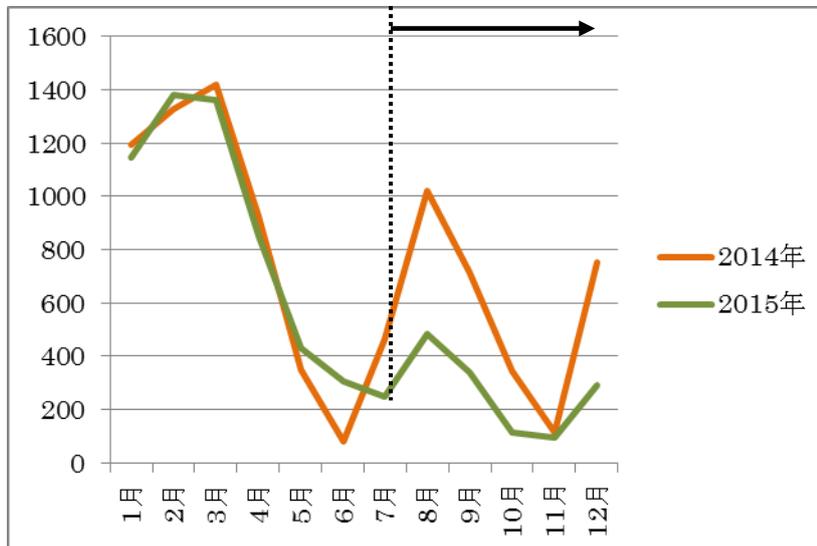
4) 高津エアコン、サーキュレーター、自転車の購入

2月～3月にかけて、サーキュレーターの買い替えを行いました。今回購入の機種は首ふりが上下左右可能のもので、空気攪拌機能がアップしました。5月には自転車を購入し、近隣での用事は自転車で済ませるようにしました。ただ、もともと自動車使用率が低いので、ガソリン使用量の削減にはあまり影響はありませんでした。

6月に高津の業務用エアコン1台を買い替えしました。導入後の電気使用量を分析すると、前年の約1/2～1/3まで削減できました。最新機種の省エネを実感しました。その影響もあり電気使用量の削減が可能となりました。

高津事務所業務用エアコン買替による電気使用量削減状況 単位：kwh

※点線以降に省エネエアコン買い替えの効果が表れています



【今後の課題】

計画案を継続実行していきます。二酸化炭素排出削減のためには、基本的なことですが、不要な電気使用をいかに削減するかです。繰り返しの啓蒙教育で、社員一人一人に省エネの意識を持たせる手段を考える必要があります。

2. 焼却処理廃棄物の排出抑制

【取組み内容】

- 1) 廃棄物の分別化の徹底
- 2) コピー用紙裏面利用の徹底、両面縮小機能の利用
- 3) ミスプリ防止のためのプリンタ設定確認



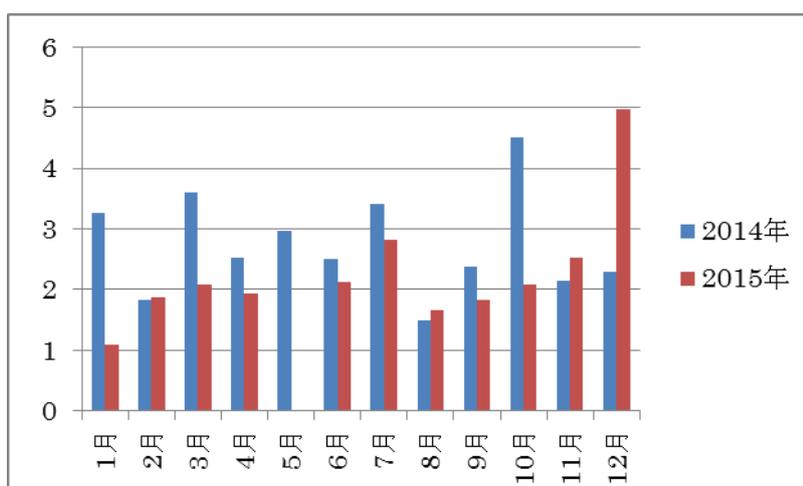
【評価】削減目標達成

この環境目的も目標値を売上原単位に戻しました。結果は目標達成になりました。売上の目標達成もさることながら、大阪事務所のゴミの分別化教育が成果を上げ、下記グラフからもわかるようにゴミ排出量の削減ができました。

また本社及び高津事務所では、長年にわたる活動でゴミ分別化は浸透しており、今後も継続していくことが大切です。

1) 廃棄物の分別化の徹底

大阪事務所 燃えるゴミ排出量比較表 単位：Kg



※大阪事務所 12月は年末大掃除で排出量増加が目立ちますが、年間では前年比7.93Kgの減量となりました。

今期、特に大阪において、分別化の徹底により排出量の減量ができました。

- ① デスクの上に置くカップのしずくをティッシュでふき取っていた習慣を、コースター使用をすることで、無駄なティッシュ使用にストップをかけ、紙資源の無駄使いをやめるようにしました。
- ② 再資源化できる紙ゴミの種類表示をゴミ箱にすることで、分別意識を向上させることができました。結果、焼却ゴミの削減につながりました。
- ③ 弁当がらを洗って廃棄することで、焼却ゴミから資源ゴミへと分別変更したために、焼却ゴミの減量化につながりました。



【大阪事務所のゴミ分別】

2) コピー用紙裏面利用の徹底、両面縮小機能の利用

長年の活動によりミスプリントが少なくなり、裏面利用用のコピー用紙自体が減量しています。

3) ミスプリ防止のためのプリンタ設定確認

複合機の機能アップにより、ミスプリントを事前に削除することができるようになっており、ミスプリ削減が可能となっています。

【今後の課題】

計画案を継続実行していきます。

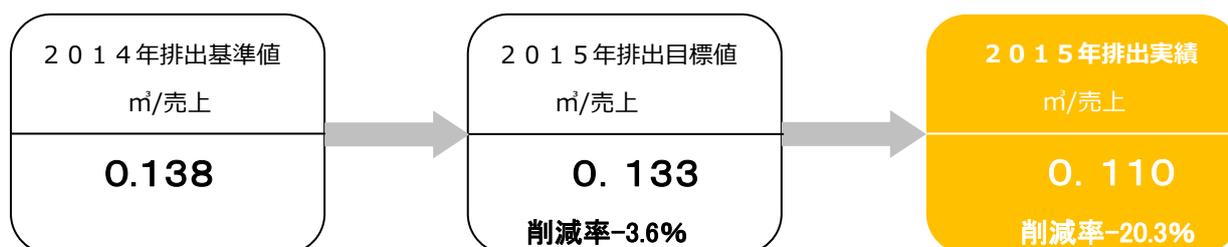
廃棄物の分別化がゆるまないように、毎年必ず啓蒙教育を持続していくことが大切と考えます。

また、絶対的排出量（焼却ゴミ、資源ゴミ）を減らすことはかなりむずかしい状況になってきています。が、限られたスペースのゴミ保管場なので、容積を圧縮して保管できる量を増やす方法を考えたいと思います。

3. 水資源投入量の抑制

【取組み内容】

1) 節水に努める



【評価】削減目標達成

水使用量も目標値を売上原単位に戻しました。

大阪事務所はトイレ等水回り系設備がビル内共有のために、数値把握は不可能。目標値設定は高津及び本社のみとなっています。

1) 節水に努める

水道水は事務所系生活用水としての使用なので、2007年からの削減活動により総量数値は限界までできています。社員の増減により使用量に変動は生じますが、大きな変動はありません。今後もレベル維持を図るために引き続き節水に努めていきたいと考えています。

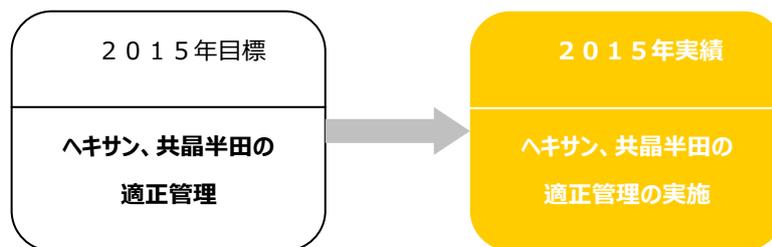
【今後の課題】

計画案を継続実行していきます。

4. 化学物質の適正管理

【取組み内容】

- 1) ヘキサンの適正管理・使用記録
- 2) 共晶半田の計測と適正管理



【評価】 目標達成

- 1) ヘキサンの適正管理・使用記録
- 2) 共晶半田の計測と適正管理

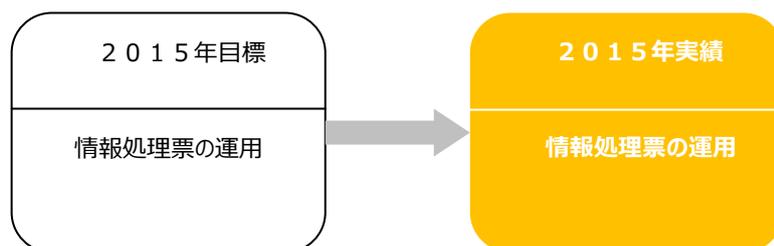
ヘキサンは業務上必要という結論に至っているため、購入量は最小単位に抑えています。

共晶半田も実験用として備えています。収納庫の鍵かけ保管、使用量の記入など、適切な管理を継続実施しています。引き続きレベルダウンにならないよう活動していきます。

5. 製品に関する環境配慮

【取組み内容】

- 1) 箱エコ推進の継続
- 2) 「情報処理票」の運用継続
- 3) 製品の小型化・省電力化の検討



【評価】 目標達成

今期は達成できました。

1) 箱エコ推進の継続

今期箱エコ推進活動は 5,472 箱達成しました。前期比 197.3%となりました。エンドユーザーと直の大口取引が増加すると、箱エコ数も増加します。売上内容に依存するので目標値設定はむずかしいのですが、エコ活動としては非常にわかりやすい活動なので、今後も継続してPRに努めて進めていきたいと思えます。

2) 「情報処理票」の運用継続

「情報処理票の運用」をプライオリティの高い活動として位置付けしました。前期は社長のイニシアチブにより習慣化を目指しましたが、今期は現場レベルでの積極姿勢で確実に行われました。運用により、問題原因の追究とそのフィードバックが確実に行われるので、品質向上に繋がりました。

3) 製品の小型化・省電力化の検討

製品の小型化・省電力化の検討は、実際問題として新製品の開発や改良事項が発生しないと活動には至りません。今期は、上記問題を検討するようなケースが発生しなかったというのが実態です。ただ、製品開発のベースとして今後も継続しなければならない重要な活動です。

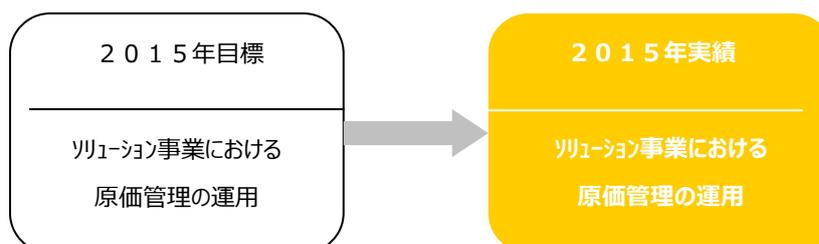
【今後の課題】

新製品の開発や現行製品の改良などにより売上アップを目指すことがメーカーとしての存在意義であり、売上向上の基軸になります。新製品開発を推進することが必要です。また、部品の調達と納期がむずかしい問題となってきたので、製品不足や過剰在庫にならないような生産計画を環境活動の中に組み込んで、売上向上、無駄削減に貢献することが重要です。

6. 業務における QCD の向上

【取組み内容】

- 1) ホームページの活用（情報の更新・新情報の提供）
- 2) 日常業務における問題点の顕在化と改善
- 3) ソリューション事業における原価管理の運用



【評価】 目標達成

1) ホームページの活用（情報の更新・新情報の提供）

インターネットの発達により、ホームページをご覧頂いてのお客様問い合わせが圧倒的になっています。今期、ようやくホームページの全面改定を行ないました。少人数会社の悩みですが、インターネット専任の社員が存在しません。情報の更新を随時行いたい状況ではありますが、能動的動きができていません。しかし、この問題を解決しないと、情報の陳腐化、HPの劣化が発生してしまうので、来期はこの点を改善する必要があります。

ホームページが充実すれば、カタログ等の紙印刷物のペーパーレス化に貢献します

2) 日常業務における問題点の顕在化と改善

問題点であると認識している問題を改善するのは、容易いことです。が、問題と考えていないことの中に潜む問題点を洗い出すことは難しいことです。この点、EA21委員会の会議で、広範囲な話題について議論している中で、改善すべき点があぶり出されてくるということがありました。

今期は修理フローの問題、書類上の記載の統一化など、業務の効率化や仕事の質の向上などに役立ちました。一部の社員しか知らない内容の業務というのは、仕事上のブラックホールとなってしまいますので、この委員会の場を利用して、改善していくのは大変有効だと感じます。

3) ソリューション事業における原価管理の運用

今期の重要取組みは「ソリューション事業における原価管理の運用」でした。

無駄な経費の洗い出しや削減を行うには、実態を数値で示し、見える化が一番の効果策です。今期は原価管理フローに基づき運用を行いましたが、社員の認識不足で意図通りには進まないこともありました。認識齟齬解消には、丁寧な説明、周知徹底が必要であることを逆に知らされました。

まだ、改善の余地は多々ありますが、具体的効果も表れているので継続していきたいと思えます。

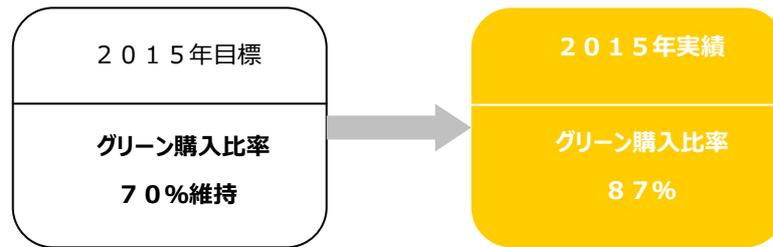
【今後の課題】

省資源化の広告媒体としてのホームページは、企業にとって大変重要かつ効果的の広告です。そこを認識しながら、情報更新をおろそかにしていたことを反省し、情報更新を実践していくことが大切です。また、ソリューション事業部の原価管理については、さらにワンランク上の精度を出せるように努力していく必要があります。

7. グリーン購入比率の向上

【取組み内容】

- 1) エコ商品購入の継続
- 2) グリーン調達の継続



【評価】 目標達成

1) エコ商品購入の継続

今期は 87%の達成となりました。エコ商品の購入は購入リクエストする側もエコ商品を念頭において商品セレクトしてきており、エコ商品の意識が着実に根付いてきています。

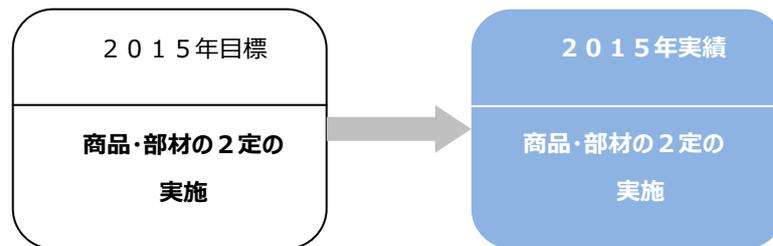
2) グリーン調達の継続

グリーン調達は、このまま継続していきたいと思えます。

8. 5S・4定の実施

【取組み内容】

- 1) 商品・部材の定置定物化の実施
- 2) ゴミ収納庫の購入



【評価】 目標未達成

今期の重点目標とした「商品・部材の定置定物化の実施」が進みました。が、定置定物の表示がおろそかになっており、共有認識ができるまでには至りませんでした。残念ですが、なんのための「表示なのか」が社員に浸透していません。

1) 商品・部材の定置定物化の実施

前期も不要物の整理を行いました。さらに今期も思い切った廃棄を実行し、スペースの有効利用が進みました。また、ゴミ収納庫の購入によって空スペースを確保することができ、部材と製品、商品の保管場所の定置定物化が進みました。

2) ゴミ収納庫の購入

産業廃棄物のスペース確保及び安全衛生面の観点から、ゴミ収納庫を購入設置しました。ゴミ収納庫には飲料系空き缶、ペットボトル、弁当がらを収納しています。室内にこもる産廃の匂いがなくなり、空スペースもでき、整理整頓の助けとなりました。

【今後の課題】

まだまだ発展途上です。表示方法にも工夫が必要です。さらに見た目の美しさをもっと意識する必要があります。そのための費用も必要となりますが、「整然さ」を意識して活動していきたいと考えます。

■環境関連法規制の遵守状況

(1) 当社に適用となる主な環境関連法規

適用法令	該当する活動	遵守状況
目黒区廃棄物の発生処理抑制、再利用の促進及び適正処理に関する条例・規則	<ul style="list-style-type: none"> ・事業系一般廃棄物等の排出方法、有料ゴミ処理券の貼付 ・廃棄物分別化の徹底 	遵守
川崎市公害防止等環境保全に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> ・生ゴミの適正処理、環境洗剤の使用 	遵守
大阪市廃棄物の減量推進及び適正処理並びに生活環境の清潔保持に関する規則	<ul style="list-style-type: none"> ・事業系廃棄物の発生の抑制、再利用及び再利用の促進と減量 	遵守
消防法	<ul style="list-style-type: none"> ・5S活動-保管庫の適正管理 ・管理責任者の明記、使用手順書による取扱 ・消火器の設置 	遵守
労働安全衛生法	<ul style="list-style-type: none"> ・排気装置の点検 ・専用洗剤の用意と手洗いの実行 	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の分別化の徹底 ・廃棄物処理業者との委託契約、契約終了後の保管 ・マニフェストの交付、回収の日程管理、保管 ・管理票報告書の提出 	遵守
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・業務用エアコンの簡易点検 ・点検及び整備に係る記録と保存 	遵守

(2) 過去3年間、違反はありません。

また、関係機関等からも特に指摘はなく、訴訟も同様ありませんでした。

代表者による全体の取組状況の評価と見直し

売上原単位を再採用した今期、売上目標達成のため特に10月以降は追い込みをかけ頑張り、三大環境目標が達成できたことについてはうれしいことです。明確な目標を立て、そこに向かって邁進することの効果を感じました。ただ、全社的には目標達成できましたが、拠点別ということでは、内部的目標を達成できなかった点があります。営業力不足と案件のスケジュール的遅延が原因であることが明白なので、この点を改善して拠点別の目標が達成できるようにしなければなりません。

高津において最新機種のエアコンの買い替えを行いました。省エネ機能の威力を目の当たりにして、その効果に驚きました。「もったいない精神」も大切ですが、新機種導入がもたらす経済的効果や環境的効果の認識を新たにしました。

前期のレポートにおいて、大阪事務所における節電意識の向上のための意識教育の必要性を述べました。今期、仕事の状況変化等で電気使用量の削減という数値的結果を得ることは叶いませんでしたが、エアコンの利かせすぎや無駄な電源のオン状態等には、社員が意識を持つようになったことはうれしい成長と考えます。さらに意識教育という点については、大阪において燃えるゴミの排出量が減量できたことも朗報でした。ゴミ分別化の具体的事例を示し、周知することで削減できたのです。意識教育の大切さを改めて感じたと同時に来年度も意識教育は繰り返す必要があります。

三大環境目標以外においては、「5S4定の徹底」を除いて、目標達成となりました。今や、三大環境目標以外の活動が会社の重要活動になっており、それが着実に実行されているのは会社の質の向上です。

「製品に関する環境配慮」「業務におけるQCDの向上」「5S4定の徹底」は、無駄省き、効率化の促進という共通項のある活動です。直接的にせよ間接的にせよ、なんらかの形で環境負荷低減を目指すものです。やるべき課題は多く、来期も継続活動とし、かつ重点目標として取り組む必要があります。

三大環境目標のアウトラインは今期同様で活動し、売上原単位採用も継続します。数値目標についてはうれしい見直しが必要となりました。売上目標のハードルを上げ、次年度も数値達成を目指します。

三大環境目標以外もすべて継続活動とします。「業務におけるQCDの向上」においては、再度ソリューション事業部の原価管理の運用を最重要項目とします。「製品に関する環境配慮」については、製造メーカーとしての意識を具現化した実施項目を考え、活動に深みを与えたいと思います。「5S4定の徹底」は弊社にとって難題ですが、大いなる進歩を遂げられれば、イコール社員全員の意識改革の結実と考えられます。それを目指して活動してまいります。

会社組織の健全化のため、売上向上のため、環境負荷低減のために、新たな決意で環境活動に精進していきたいと思います。